授業概要

本授業では、子どもを対象とした演劇の在り方を学ぶ。子どもを対象とした演劇は大きく次の二つに分けることができる。一つは、子どもの鑑賞を目的としたもの。もう一つは、子ども自身が創造の主体となることを目的としたものである。しかしこれらは単純に分けられるものではなく、幼稚園・保育園で演じられる《ごっこ遊び》や絵本の《読み聞かせ》、エプロン・シアターのように問いかけながら進める《観客参加の演劇》小学校などの発表会で児童が上演する《劇遊び》、《芸術鑑賞》など多種多様な形態が存在する。本授業では、子どもの鑑賞を目的としたもの／創造を目的としたものの両面から「子ども演劇」を取り上げ、それらの歴史・理論、具体的な作品を通じての方法・効果について学習するとともに、実演（実際に演じる）という形式による教育的可能性を考察する。

授業計画

第1回	導入：子どもと演劇 なぜ演劇なのか？
第2回	子ども演劇の理論と歴史 明治期
第3回	子ども演劇の理論と歴史 大正期
第4回	子ども演劇の理論と歴史 昭和初期
第5回	子ども演劇の理論と歴史 現在の課題と問題点
第6回	海外の子ども演劇 欧米
第7回	海外の子ども演劇 東アジア
第8回	作品鑑賞
第9回	子ども演劇の方法と効果 読み聞かせと紙芝居
第10回	子ども演劇の方法と効果 エプロン・シアター、パネル・シアター
第11回	子ども演劇の方法と効果 人形劇
第12回	子ども演劇の方法と効果 劇鑑賞
第13回	子ども演劇の方法と効果 ごっこ遊び
第14回	子ども演劇の方法と効果 劇遊び
第15回	子ども演劇の方法と効果 発表会
第16回	試験

到達目標

演劇という実演形式を通じた子ども教育に関する知識を習得すると共に、具体的な事例に基づきながらその実際の効果への理解を深め、卒業後に幼稚園・保育園・児童館・小学校などの教育・保育機関で実践を行うための基礎を作る。

履修上の注意

授業では学生に発表、意見交換、実演などを行ってもらうことがあるため、積極的に参加することが望ましい。遅刻は15分以内までとし、3回の遅刻で1回の欠席扱いとする。

予習復習

予習：事前に授業内で必要な資料、文献、課題等を配付・指示するので、授業当日までに各自で読んでおくこと。

復習：授業プリントを読み、試験に備えること。また欠席した場合は各自でプリントの穴埋め等は行うこと。

評価方法

評価は①課題レポート 60%＋②平常時の授業態度（出席と参加度）40%を総合して判断する。

テキスト

教科書

授業はプリントを配付して行う。欠席した際は各自でコピーを入手すること。

参考文献

- 歴史の概観に→富田博之『日本児童演劇史』東京書籍、1976年
- 幼稚園・保育園での実演に→中谷真弓『PriPri 中谷真弓のエプロン・シアター ―乳児から幼児まで! すぐに作れる実物大型紙つき』世界文化社、2010年